

天塩川水系河川整備計画H P P上のサンルダム建設計画に対して寄せられた意見を見るかぎり、建設賛成派の流域住民はサンルダムに天塩川流域の治水効果を主に期待していると解釈できる。そのような点をふまえた上で、この治水効果について疑問を呈したい。

サンル川は天塩川水系全体からみれば1つの小支流（本水系流域面積のわずか3%）にすぎないにもかかわらず、サンルダム建設賛成派の流域住民の多くが期待するようになり、そのダムが洪水時において天塩川本流域（名寄市より下流部）の流量を効果的に低減するほどの治水機能を有するのであるだろうか？

答えは、道開発局はもちろん流域住民のみならず自身がかかわっているはずである。もし、天塩川流域の治水をダムで行うのであれば、天塩川本流の上流域に（岩尾内ダムとは別の）ダムを建設する方が明らかに道理に合っている。

「しかし、サンルダムは少なくとも名寄川流域に対しては治水効果があるはずだ」という向きもあるかもしれない。名寄川流域の治水を考える場合、当然ながら下川町市街付近は重要な治水対象地の1つとなる。だが、ダム建設予定のサンル川と名寄川の合流点は、その市街地より下流側に位置する。つまり、市街地と合流点の位置関係からみて、サンルダムは下川町市街付近の治水には特に効果はないことになる。名寄川流域の治水をダムで行うというならば、下川町市街より上流域の名寄川の方にダムを設置すべきだろう。

治水に関する疑問を1つ1つ検証してみても、サンルダムの有効性をみつけることが出来ないため、本ダムの建設に反対する。道開発局は、より効果的な治水対策を天塩川流域に施すべきである。